同じ5個の値を、二つの方法で要約する

データ：10、11、12、13、54（小さい順）

平均値

すべての値の合計を、値の個数で割ります。

（10 + 11 + 12 + 13 + 54）÷5 = 100÷5 = 20

中央値

小さい順に並べた5個の値の中央、3番目の12です。

差が出る理由を、計算と位置から説明する

平均値20、中央値12。答えの数字だけでなく、理由を確かめます。

平均値は、すべての値を計算に使います。

この例では54も合計に含まれるため、平均値は20になります。

中央値は、並べたときの中央の位置で決まります。

この例の3番目は12なので、中央値は12です。

中央値が常に適切とは限りません。要約する目的や分布も確かめます。

資料を閉じて、理由まで答える

次の3問をカードにして、原文と答えを照合します。

01 この5個の値の平均値は？ 計算式も答える。

答え：合計100を5で割り、平均値は20。

02 中央値はいくつ？ 決め方も答える。

答え：小さい順で3番目の値なので、中央値は12。

03 平均値20と中央値12に差が出る理由は？

答え：平均値は54を含む全値を使い、中央値は中央の位置で決まる。